

議長（前原英石君） 1番 森 弘秋君。

1番（森 弘秋君） 議席に座りましたら、村長の名刺がありました。まさに日本一小さな村の宣伝にもってこいじゃないかと。私が質問しようという趣旨を踏まえられて、うわーすごいな、ありがたいなというふうに思っております。

これでもって各市町村なりに宣伝してもらえば幸いかと。と同時に、私らにもこの図案を採用させてもらえればありがたいなというふうに思います。

それでは、本題に入ります。

私からは、小さな村サミットの開催・宣伝活動の推進について、村当局の考えをお聞きします。

先日、進学や就職、結婚で村を離れていく若者を抑え、新たな転入者を図るために、村の魅力を磨く努力が必要となると報道した記者がおられました。全く同感であります。

舟橋村は、平成元年にスタートした人口増施策により、人口1、400から3、000人と倍増しました。ところが、元村住民と転入住民との融合がなかなかみ合わないと言われてから久しいものであります。

そこで、この問題を克服するためにも、村民全体が一丸となって、「すごく輝いておる村」「全国一面積の小さな村」としてのアピールをし、「あなたは舟橋村の住民ですか。いや、よいところに住んでおられますね。すごい。輝いている村ですね」と言われるように村を盛り上げて、発展をしていかなければならないと考えます。

舟橋村の総合計画にも掲げてあり、そして村長が今議会の提案理由説明にも述べておられましたが、「子供を育てるなら舟橋村！ 住み続けるなら舟橋村！」をキャッチフレーズとして捉えられておられますが、知名度が若干低いと思われれます。その知名度をどうしたら上げられるか、いろいろな方法があると考えられます。

先日のニュースで、2020年の東京五輪の合宿地として、富山県はスポーツ環境が整い、全国に先駆けて総合型地域スポーツクラブも整備されている。よい条件がそろっていると思うとの見解を五輪組織委員会の副事務総長が語られたそうです。富山県に多くの選手が合宿地として来県することが期待できます。

舟橋村は、富山市のベッドタウン的存在であります。東京五輪の合宿地として選手が来県すれば、その相乗効果として、舟橋村も全国一面積の小さい村として発信できると考えられます。

また、「ちっちゃな舟橋村」と銘打って全国に発信しておりますが、いまいち宣伝が

弱いと思います。

そこで、メディアを使い、全国にある小さな村サミットの開催はできないものかと考えます。

市町村サミットは、およそ30年前から全国連絡会議として各ジャンル別に企画・構成されて開催されたものでありますが、平成の大合併によりサミットも縮小傾向にあります。しかし、「継続は力なり」と言われるとおり、現在でも健在で活躍しているサミットがあります。

全国の特徴あるサミットは、例えば、全国門前町サミット、子守唄サミット、八の字サミット、ほたるサミット等々、それぞれ特徴を持ち、ユニークであります。

このサミットの目標は存在のアピールですから、全国に、「富山県舟橋村」、ここにあり。そして、参加するお互いの村の宣伝にもつながり、かつ、その村の活性化にもなります。経済効果も期待できます。

そこで、舟橋村のサミットに当たっては、全国で小さいと言われる村、一に面積の小さい村、「ちいさい村サミット」と題して、参加者を全国津々浦々に声かけし、計画的に開催してはいかがでしょう。

その中で、例えば、いかにして過疎化を防ぐか、人口減をいかにして食い止めるか、人口増の考え方、小さいながらにして村としての頑張り守り育てる方策は、お互いに対等の立場に立って、小さい村で何ができるかを考える、であります。

ところで、村長は以前の答弁で、我が村には観光資源がない、あるいは宿泊施設もないと言っておられましたが、私は、この宿泊施設の件に関しましては、以前にホテルの誘致にも触れました。が、村長は、我が村の基幹産業は農業であり、農産物の特産化を目指すと言っておられた記憶があります。そのことからすれば、例えば「農産物の特産化サミット」と銘打って、その振興をどうするかを話し合ってもよいと思います。

また、あるいは観光として、資源の開発は難しいものです。今後、舟橋駅北側も整備されることから、現存する観光、例えば無量寺、ばんどり騒動、ハスの花等の共同開発などが考えられます。

折しも7月に高岡市で路面電車サミットが開催されます。調査をしましたが、内容がよくわかりませんでした。が、チラシによれば、「鉄路を繋ぐ軽快都市！」として、各団体の報告があり、中部地区路面電車愛好支援団体協議会の全体会議で締めくくるそうです。開催当日は、私も参加したいというふうに考えております。

さて、このようなイベントから、舟橋村の宣伝、ひいては住民への刺激、村民の愛着が深まり、住民の村への心の感性、自慢の村として捉えることを願いたいものであります。

視点を变えて、日本一小さな村を電車の窓から見える宣伝をしてはいかがでしょうか。北陸新幹線が9カ月後に開通します。以前、24年の9月議会でも、新幹線開業を見据えた施策について、幾つかの市町のイベントを紹介しながら、今も輝いていると言いましたが、我が村もいろんなジャンルで輝きたいものです。

新幹線は100年に一度のビッグイベントと言われております。これを契機として、先ほども申しましたが、小さな村サミット、農産物の特産化サミット、豊かな自然環境サミット、あるいは健康サミットでもよいわけです。少しずつ前に進めばと考えます。

また、舟橋村の宣伝にしましても、もう少し工夫してはいかがでしょうか。例えば、現在は「ちっちゃな舟橋村」の看板が舟橋駅前に設置されておりますが、この場所では、宣伝には限界を超えていると思われれます。新幹線が開業すれば、県外の旅行客が増えると予想されます。「風が吹けば、おけ屋がもうかる」ということわざではありませんが、県外の旅行客が増えると、「立山アルペン」への観光客が増える。立山アルペンへの観光客が増えると、富山地方鉄道の利用客が増える。車窓から眺める景色の中で「ちっちゃな舟橋村」の看板が見える。舟橋村の宣伝ができる。無料で宣伝ができます。

「ちっちゃな舟橋村」の宣伝看板を富山地方鉄道沿線に、村の入り口と出口の2カ所に設置してはいかがでしょうか。

また、ふなはしまつり等でアドバルーンの掲揚、さらに舟橋村の宣伝ポスターを掲示し、その効果を上げる。

以前、定かではありませんが、どこかの市や町で掲示、また電鉄富山駅で見かけた記憶があります。が、最近はとんと見かけません。

まず、手がかりとして、中部7県の市町村に配布、宣伝されたらよいと思います。発展に向け、一歩前に、先に出ましょうよ。

3月議会で、役場前駐車場の拡大について質問しました。村長は、意見として聞いておきますと言っておられましたが、私は、駐車場が狭い。有事の場合どうするのか。救急車がいつでも出入りできる体制にしておかなければならない。そのことも重要であり、大切であります。が、舟橋村の発展を考え、そして将来を見据え、駐車場の拡張も必要であると考えを問うたものであります。

要は、いかにして打って出るか、村の存在のアピールであります。人の出入りが多くなれば活気があふれ、みなぎり、それなりに価値観が生まれると思うのであります。

「ローマは一日にしてならず」です。が、地道にこの村を、最初に言いましたように、「住み続けるなら舟橋村」として遠大な計画で宣伝していきましようというふうに考えます。

答弁をお願いいたします。

議長（前原英石君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 1 番森議員さんの、日本一小さな村の全国サミットの開催提案についての質問にお答えしたいと思います。

まず、森議員さんのご意見を要約いたしますと、元来舟橋村では、お互いの顔が見えると、非常に親密感があるという村の形態で住んでいると。しかし、ここ 20 年の間に人口が増えたということによりまして、地域に対する愛着や行政に対する関心が希薄化して、そしてコミュニティーも断片化していく。そういった中で、新たな地域課題を生むことになっているんじゃないかと。こういうようなご指摘があったわけでありまして、私は、やっぱり、以前から皆さん方に申し上げておるとおり、こういった課題を一日も早く克服していかなくてはならないということから、協働型の村づくりといえますか、そういったまちづくりを進めていくということを常日ごろ言っているわけでありまして、まさしくこのサミットを通じてそういったことを図っていくという提案だったというふうに理解しておるところであります。

いずれにいたしましても、今後とも、村民が地域に愛着を持って、地域が一丸となって村の形態を守っていくといえますか、つくり上げていくということは大変重要なことでありまして、そういった中にはやはり住民同士の共助機能が非常に大切であるということでもあります。

そういったことを含めまして、そういったご提案があったことにつきましても十分検討しなくてはならないということだと、私はそのように思っておりますし、議会の皆さん方と十分相談したいと、こういうふうに思っております。

そういったことを含めまして、村の総合計画では協働型まちづくりを、そして健康構想ではソーシャルキャピタル、いわゆる地域での信頼感を醸成していくと、こういうことを柱に掲げておるわけであります。

舟橋村の、そういった中で、人口構造から申し上げますと、生産年齢人口、いわゆる

15歳から64歳までの人口を言うわけではありますが、全体の62.5%を占めておりますし、そしてまた、そのうちで30代、40代の方が全体の36%ということで非常に高率であります。そしてまた、その方々が核家族で構成されておる。そういったことからして、非常に、先ほども申し上げましたけれども、なかなか共助機能が構築できない状況であります。

そういうことを含めまして、今年度は、子育てカフェによる子育て世代間の交流促進、あるいはまた、エイジレス世代を対象にいたしました仲間づくり事業を展開してまいると、こういうふうに予定しておりますので、そういったこと等を通じまして地域コミュニティの醸成を図ってまいりたいと、こういうふうにしておるわけであります。

全国サミットの件は、今ほど森議員が言われたとおり、地域との情報交換を行うとともに、その地域地域がどのように取り組んでいくかという活動をさらに発展させるということで非常によい機会だと思っておりますけれども、先ほども申し上げましたように、まだ舟橋村ではそういった地域間のいろんなことが十分醸成されていないということもありますので、総論ということで申しわけないんですけれども、賛成いたしますけれども、各論では、いまひとつ早いんでなかるうか、時期尚早でないかと、こういうふうにも思っております。

いずれにいたしましても、先ほど言いましたように、十分検討してまいりたいということをお願いいたします。

そして、9カ月後の、来春の3月には新幹線が開通することになっております。そのことによりまして、県外から多くの観光客が富山県に来県されるということ。そういった期待感とともに、それぞれの自治体では、そのことで地域の特性を生かした取り組みが行われておるわけではありますが、本村では独自の実施プランを持っていないわけがありますけれども、富山県と15市町村、そして富山県観光連盟で構成いたします「富山で休もう。」というキャンペーン推進協議会ができておりまして、平成26年度の事業費で申し上げますと、1,750万の事業費を持っておるわけであります。そういった一団体としてこのことに対応してまいりたいと、こういうふうにしておるわけあります。

さて、皆さんご存じのとおり、平成の市町村合併が進みまして、全国の市町村の数も1,719となっております。そしてまた、村制を施行しておるのは現在183あります、自治体が。その中で、舟橋村の人口・面積・人口密度ランキングを申し上げますと、

人口につきましては、平成22年の10月1日、いわゆる国勢調査から増減をひとつ推理しまして推計人口を出しておるわけでありましたが、舟橋村は2,974人ということでありまして、88位だと。そして、面積では3.47平方キロで183位。最下位で、これは日本一の小さな自治体であるということになるわけでありましたが、人口密度では非常に高うございまして、857.06で5位にランクをされております。

こういったことから見ますと、舟橋村の特徴は、コンパクトで地理的にも交通体系の利便性に富んでおるといふことと、非常に自然環境に恵まれて住みやすい環境にある自治体であるというふうには思っておるわけでありまして、このすばらしい舟橋村の住環境を村外に発信していくということは本当に大切なことを改めて私も認識しておるわけでありまして、今後とも十分このことを含めまして検討してまいりたいと、こういうふうには思っておりますけれども、いずれにいたしましても、議員の皆さんから、積極的なそういったご提案等をいただきたいと。そして、お互いに共通の課題として、舟橋村をますます発展させるために意見交換等をさせて、議論を深めていきたいと、このように思っておりますので、そういったことを含めて皆さん方をお願い申し上げて、私からの答弁とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

議長（前原英石君） 森 弘秋君。

1番（森 弘秋君） 村長、答弁ありがとうございました。

最後に私も言いましたように、「ローマは一日にしてならず」と。ですから、きょう言うてあした、あるいはきょう言うて来年と、そんなわけにはいきませんが、村長おっしゃったように、舟橋村は3.47。人口密度が村としては上の方で、高いんですね。非常に大きいということも考えて、魅力ある舟橋村ということでしたので、1年か2年かわかりませんが、3年か4年かわかりませんが、ともあれ有効な手段でもって舟橋村というものをどんどんアピールしてほしいと。そういうことも村長、答弁されましたので、なるべく早くと。そう言うて、先ほど言いましたように、1年後とはいかんですけれども、近いうちということ、よろしく願いします。

特に答弁は要りませんので、お願いします。